

地域づくり活動NPO事業助成事業 実績報告

事業区分 (3 205)

団体名	(認定)コミュニティ・サポートセンター神戸	代表者名	(職名) (氏名) 代表理事 星野裕志
事業名	ICT企業との協働による地域の居場所のためのメニュー開発およびPC寄贈事業		

< 事業実施実績 >

年月日 定例は「月1回」 「毎○曜日」等で記入	場所	参加者 一般 (スタッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) 講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
7月30日	オンライン	(6)	【1. 研究会の実施】 第1回研究会 全体の方向性の議論
9月5日	おせっかふえ (神戸市灘区)	25 (3)	【1. 研究会の実施】 こどもの居場所にてAI交流プログラムの試行と意見交換
11月19日	魚崎南地域福祉センター (神戸市東灘区)	20 (4)	【1. 研究会の実施】 高齢者の居場所にてAI交流プログラムの試行と意見交換
12月10日	オンライン	(6)	【1. 研究会の実施】 第2回研究会 試行実施を経てのプログラムの変更、寄贈の枠組みの検討
1月26日	オンライン	(6)	【1. 研究会の実施】 第3回研究会 交流プログラムの最終決定、サミットの打ち合わせ
8月～1月		2団体	【2.AIによる交流プログラムの開発】 トロッコゲーム、ようかいメーカー、へんしん鏡、の3つのAI交流プログラムを開発
2月21日		11団体	【3. 企業から居場所へのPC寄贈】 地域ICT推進協議会からごちゃまぜかふえ会員の居場所等へ寄贈・覚書の締結 (11団体・12台)
2月21日	東灘だんじりミュージアム (神戸市東灘区)	70名 (6)	【4. 贈呈式と交流サミットの実施】 PCの寄贈式および交流プログラムの発表とAIプログラムのデモンストレーション。オンライン・会場合わせ70名が参加。

< 効果と成果 >

「常設居場所」は、「同じ場所で週3回以上開設している民設の場所」と定義し、当法人ではこれまで10年以上にわたって開設・運営支援を行ってきました。

対象者を限定せずアットホームな雰囲気の中で「行ったら誰かが気遣ってくれたり、情報や人をつないでくれたりする」というコーディネーター的存在がいるのも市内の公的センターにはあまりない特徴です。

これまで常設居場所における各種調査を実施してきて見えてきたのは「常設居場所が、特に資金面において、持続可能性を担保することがいかに難しいか」ということでした。

この課題を改善すべく、2025年度から神戸市東部において実験的に実施してきたのが、地元企業10社で居場所10か所を応援する「ごちゃまぜかふえ」という取り組みです。1社あたり年間6万円の協賛金で、居場所の一部運営費に充当していますが、今事業では協賛企業のひとつである「地域ICT推進協議会」と研究会を組成し、AIによる交流プログラムの開発とPC寄贈を目的とした事業を実施しました。

結果的に3つのAI交流アプリ(トロッコゲーム、ようかいメーカー、へんしん鏡)を開発し、それらアプリを搭載した中古PC12台を居場所に寄贈いただくことで、多世代交流による居場所活性化につながりました。

<今後の展望>

・開発したAIアプリは非常に好評で、アナログとデジタルの融合の可能性を感じる事業となりました。
顔と顔の見える関係でのアプリ開発およびPC寄贈を今回の申請事業の目的としており、また一部課金も発生することから、ごちゃまぜ委員会の10居場所限定のプログラムとなり、広くURLを公開するには至りませんでした（デモ版は公開）。

・常設居場所にとっては、新たなプログラムの獲得とICT企業とのネットワークの構築および多世代の集客のきっかけとなっており、引き続き常設居場所の運営支援について、総合的に継続して議論する予定です。

<収支決算書>

(収入)

項目	金額(円)
地域づくり活動NPO事業助成金	450,000
異業種交流会参加費等	11,039
合計	461,039

(支出)

区分	項目	金額(円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直接 経 費	謝金等	145,000	145,000
	広報費	20,900	20,900
	会場費	18,175	18,175
	その他(活動交通費等)	220,000	208,961
	小計	404,075	393,036
間接経費(一般管理費)		56,964	56,964
合計		461,039	450,000